

# 気管支喘息について

喘息は炎症を起こしている気道が刺激によって狭くなることで、呼吸が苦しくなる病気です。喘息の人の気道は、発作がないときでも炎症があります（イメージとしては、気道の壁がいつも「やけど」のようにただれていたり、厚くはれたりしている、といった感じ）です。

気道に炎症があると、様々な刺激に敏感になり、喘息発作が起こりやすくなります。気道の炎症は、短期間で完全に取り除くことが難しいため、喘息発作がなくても、炎症を抑える治療を続ける必要があります。自分の判断で治療を中断したりすると、気道の炎症がさらに悪化し、喘息発作が起こりやすくなります。

## 1 診断

何度か喘鳴を繰り返す患者さんで、アトピー素因（両親がアレルギー体質であるなど）を参考にし、他の疾患（気管の奇形や胃食道逆流など）を除外して診断します。RSウイルス感染など、喘息と同じような症状をきたす病態もありますので、しっかり経過をみていきます。

## 2 検査

血液検査、呼吸機能検査などを行います。

## 3 治療

小児喘息のガイドラインに則り、重症度に合わせた治療を行います。環境整備などの説明を行い、長期管理薬（症状がなくても毎日使用するもの）と発作治療薬（発作が起きた時に使用するもの）を適切に使用できるようお話しします。そして長期管理薬（日頃から使用するお薬）で気管の炎症を抑え、喘息発作が起こりにくい状態を目指します。症状の重症度によっては、長期管理薬として「吸入ステロイド薬」も使用します。

吸入薬でも、「ステロイドは使用したくない」という保護者の方がいらっしゃいます。しかし、炎症を抑えるには効果的で、ガイドラインに則り適切に吸入ステロイドが使用されるようになってから、喘息発作で入院される方、また、喘息で亡くなる方も劇的に減少しています。

担当 小児科部長 中農 昌子